

2025 年度

SGT 活動レポート

中 2 ステンドグラス講座 A 班 第1回

4 月 23 日(木)に中学 2 年生によるステンドグラス講座が 4 階技術家庭科室で始まりました。2 時間×4 回で 1 作品を完成させます。今年は、キャンドルボックスを製作します。講師は、ステンドグラス工房かわもとのかわもとみえ先生とインストラクターの齋藤修さん、岡田あかねさんに御指導いただきます。みえ先生は、1996 年にお父様が経営するステンドグラス工房かわもとに入社後、2006 年から 2007 年にかけてアメリカのオレゴン州のステンドグラス工房で技能を学び、2013 年にはステンドグラス 1 級技能工芸士の資格を取得、SGAJ(日本ステンドグラス協会)公認会員となりました。現在は、静岡市沓谷に工房構える日本を代表するステンドグラスアーティストとしてカトリック清水教会のステンドグラスの修復や静岡市出身で大正から昭和の始めにかけて活躍したステンドグラス工芸家の小川三知の残した数々の作品の修復に深く携わっています。

第 1 回は、デザイン決め、型紙作り、ガラス決め、型紙おとし、ガラスカットの練習と本番の順で進んでいきます。生徒たちは、まずステンドグラスの制作技法について学んだのち、今回の作品のデザインについて説明を受け、フローラル、グリーンリーフ、パッチワークキャット、クリスタル、シェル、富士山の見本を見て型紙を選びます。次に型紙を外枠の線に添って切り抜き、ガラスを選びます。この講座に使用される色ガラスは、全てアメリカやヨーロッパでステンドグラス制作のために使われている本物で大変高価なものです。残念ながらステンドグラス用のガラスは、日本では作られていないため全て輸入品となります。生徒たちは、太陽光に照らしながら自分の好きな色を選びます。ガラスの色が決まったあとは、いよいよガラスを型紙に合わせて切っていきます。ガラスは特性上、真っ直ぐ切ることは簡単ですが、婉曲した形に切るには熟練した技術が必要です。生徒は、みえ先生のデモンストレーションを見学したのち、オイルカッターと鰐口を使い、型紙に合わせて大枠を切り取っていききました。ここまでやって作業は終了です。

第 2 回は、4 月 30 日(木)に実施します。ルーターを使い、各パーツの輪郭を削って整えていきます。だんだん形が見えてくると作業も楽しくなりますね。



ステンドグラスの制作技法について 4 種類の方法があることを学びました。



7 種類の見本から自分の好きなデザインを選びます。



型紙の外枠をはさみで切り取っていきます。



ガラスを選びます。



さまざまな色があるため組み合わせを考えるのも楽しくなります。



同じ赤でもさまざまな表面の文様が違います。



太陽の光に透かしてみてもガラス本来の色の美しさを確認します。



ガラスの特性についてみえ先生から教わります。



ガラスを切る練習をします。



オイルカッターでガラスを切ります。



切ったガラスと型紙を付け合わせて番号を書きます。



型紙に切ったガラスを並べて本日は終了。